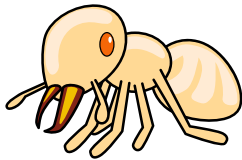


06

シロアリ防除



気付かぬうちに家屋をボロボロに食い荒らしてしまう恐ろしいシロアリ……。高温多湿な日本の風土は、シロアリにとっては快適な棲み家といえます。大切な住まいがシロアリの被害にあわないために、シロアリ防除工事を行うことがあります。その際に散布された薬剤による体調不調をうったえる相談が当センターに寄せられています。

シロアリ防除には、建築物の新築時に行う予防処理と、既存の建築物に対して行う処理とがあります。新築時に行う処理は、シロアリの被害と建築物の腐朽を予防する事を目的とします。既存建築物の処理は、建築物を食害しているシロアリを駆除し今後のアリ害を予防する場合と、アリ害は無いが予防のために行う場合とがあります。また防除方法には、土壌処理（家屋の周囲や床下の土壌に薬剤を散布する方法）と木部処理（木材の表面に薬剤を塗ったり吹き付けたり、穴を開けて薬剤を注入したりする方法）があります。

防除に使われる薬剤の成分には、主に家庭・防疫（業務）や農業用の殺虫剤にも含まれる有機リン系（ホキシム、フェニトロチオンなど）、ピレスロイド系（エトフェプロックス、ピフェントリンなど）、カーバメート系（フェノブカルブ）、クロルニコチル系（イミダクロプリド）などの種類があり、また、製剤タイプとしても、木部処理に使用される油剤や土壌処理用の乳剤（有効成分に溶剤と乳化剤を加えて均質化したもの）、マイクロカプセル剤（成分自身を無数の微小なプラスチックカプセルに閉じ込め、水に均一分散させたもの）、フロアブル剤（固体成分を微粉末にし、高分子分散剤によって水に分散させたもの）などがあります。

これらの薬剤は、木材や土壌面に浸透し、防蟻（殺蟻）バリアを築くことで効力を発揮しますが、いったん木材や土壌に浸透したものが、長期にわたり大量に空気中に飛散しつづけるのは考えにくいことです。しかし薬剤散布後、日数があまり経過していない状況で、木材や土壌の表面に残ったものが一部飛散

し、なんらかの物理的要因（床下換気扇による拡散、床すき間からの侵入、床下と床上空気の強制循環など）によって居住空間へ侵入し、それを吸い込み続けると、人によっては、頭痛、喉の痛み、吐き気、むくみ、皮膚湿疹等の体調不調を引き起こす場合があります。また、薬剤成分そのものではなく石油系溶剤の臭いで気分が悪くなる人もいるほか、今月の受付相談事例のように、隣家で散布した薬剤が自家に侵入することによって健康を害するというケースもあります。

シロアリ防除の方法には、薬剤散布以外にも、若干効果が劣る可能性があります。また、薬剤の使用を控えた方法（毒餌剤による駆除、調湿剤を敷く方法等）もありますので、使用する薬剤の安全性と防除効果、作業手順、処理時・処理後の注意などについて、業者から十分に説明を受け、家族の化学物質に対する感受性なども考慮した上で、それぞれにふさわしい方法を選択するようにしましょう。

また、防除工事の機会を利用して床下の湿気を取るために換気扇を取り付けることも行われているようですが、防除処理をした直後に床下換気扇を長時間作動させると、散布した薬剤を周囲にまき散らすことになり、防除効果が減るばかりか近隣の人に薬害が及ぶこともあります。床下換気扇は床下に湿気がたまった時に作動させるもので、常に動かしておくものではありませんから、効果的にご使用ください。

シロアリによる被害は困りますが、防除のための薬剤による健康被害はもっと困ります。このような被害にあわないよう、シロアリ防除を行うにあたっては、近隣のシロアリ発生の状況や前回の防除処理からの経過年数等から、防除処理が本当に必要かどうか十分に検討することをお勧めします。

（平成 14 年 3 月）

